

様式第4号（第6条関係）

令和6年2月9日

富士見市議会議長 田中栄志様

~~会派名・代表者~~

~~又は無会派議員名~~ 伊勢田 幸正

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 令和6年1月30日（火）～令和6年2月1日（木）
（泊3日）
- 2 参加者名
伊勢田 幸正
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
1月30日（火） 鶴ヶ島市役所（埼玉県鶴ヶ島市大字三ツ木16番地1）
1月31日（水） 坂戸市役所（埼玉県坂戸市千代田1-1-1）
2月1日（木） ふじみ野市役所（埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1）
- 4 調査・研修概要
市内循環ワゴンについて
○鶴ヶ島市
・平成8年5月から市内循環バス「ふれあい号」の運行を開始。小型バス

3台による東西2コースを運行。平成22年2月から市民バス・乗り合いタクシーの運行を実施。平成23年4月から現在のつるバス・つるワゴンの運行を開始。現在、令和5年6月に改正したルート・ダイヤで運行。

- ・現在、バス1路線、ワゴン6路線で実施。
- ・市役所や駅で乗車する際に乗り間違えを防ぐために車体は路線ごとのカラーになっている。
- ・坂戸市と連携し、相互の特別乗車証が無料で使える仕組みになっている。
- ・高齢者の無料化を実施している。ワゴンにおいて、有償で乗車する人は利用者の14%強である。
- ・目的地の手前で降車する「降車フリー」を実施している（坂戸市も同様）。
- ・ドライバーの確保については、歩合給制ではなく固定給制であることから、ワゴンのドライバーの希望の方がタクシーよりも多いとの声があるという。2024年問題についてもワゴンについては影響がない。
- ・ニーズとしては、ホームセンター・駅・病院が多い。デマンドタクシーを実施した場合、病院を目指す一時期に集中することから、デマンドは行わず、定時定路線にしている。
- ・駅1km圏内・停留所300mで市内のほぼ全域をカバーしている
- ・ロケーションシステムは導入済み。導入費が116万円、毎月3万5000円の維持費がかかる。メリットとしては、ワゴンの現在位置に関する問合せに対応する市職員の負担が減ったこと（都度、事業者を確認する必要がなくなった）、また運転手も運行状況を確認できるため好評である。

○坂戸市

- ・平成8年から市民バス3台により運行を実施し、平成25年11月にバス2台・ワゴン4台の形に変更。平成30年11月にルートの見直しを行い、ワゴン2台を追加した。
- ・高齢者（70歳以上）を令和元年から無料化した。問題点としては、短区間の利用が多くなり、運転手の負担が大きくなったことから事業者が

らは見直しを求める声もあるという。また収益率（有料で乗る人の割合）は、ワゴンは4～6%になる。

- ・課題としては1日数人しか乗らない路線もあり、デマンドの方がよいのではという考えもある。
- ・補助額は1億円の範囲で抑える考えで行っている。
- ・坂戸市独自に免許の自主返納の場合、70歳未満でも無料になる。（令和4年度に13件）
- ・ワゴンについては高齢者の利用が多く、常連の人が多い雰囲気から若い人が乗りたがらないという声もあるという。
- ・東武バスウエストの撤収問題については、交通計画や方向性を変えるまでに時間がかかることから、観光バス事業者など他の事業者を視野に入れているという。

○ふじみ野市

- ・平成29年4月から路線バスを補完するために、循環ワゴンを導入。
- ・事業者は山手ケアサービス株式会社をプロポーザルで選定。グループ会社にタクシー会社はあったものの定期運行は初めての経験であった。導入時、プロポーザルは1社のみ応募であったが、令和4年度に再選定のプロポーザルを実施し、この際は3社の応募があり、最終的に2社の競争となった。
- ・キャッシュレスシステムを導入。導入費用は年間40万8000円。
- ・「乗り残し」の件数は令和5年4月～12月で27回。従来から指摘された路線については令和5年4月からの路線見直しで改善されたが、さらに利用人数が増えたことにより、生じている。
- ・ふじみ野市は路線定期運行で国への申請を行っているため、坂戸市・鶴ヶ島市のような途中での下車はできない。
- ・民間バスを補完するという趣旨と持続可能な地域公共個通を目指す観点から、運賃収入をしっかりといただくという考えに立っており、高齢者の無料化等を行っていない。
- ・坂戸市・鶴ヶ島市が車体の色で路線が分かるようにしているのに対し、

ふじみ野市は車体の側面にマグネットで路線を貼っている。これは車両を入れ替えることで車を長く持たせるためである。

- ・ワゴンの現在地が分かるロケーションシステムは導入済み。導入費は初年度97万円・年間維持費が37万円。
- ・ゼロカーボンの考え方については、車いす対応が可能な車両としては、日産かトヨタしかなく、EV車も検討したが、まだ対応できるか確信がなかったため、見送った。

	鶴ヶ島市	坂戸市	ふじみ野市
導入時期	平成23年	平成25年	平成29年4月
台数	6台	6台	7台 (うち予備1台)
降車フリー	可能	可能	不可
料金	200円	200円	200円
ICカード	利用不可	利用不可	可能
高齢者	無料	無料	有料
委託先	タクシー会社4社	同左	事業者

5 感想及びまとめ

東武バスウエストがコミュニティバス事業から撤退する意向を示したことは、元旦の読売新聞埼玉版の記事となり、広く市民の知るところとなっている。

今回、3自治体の「循環ワゴン」を視察したが、ワゴンについては運転手のなり手不足は、現在は起きていない。ただ、今後については予断を許さない点は感じ取れた。

しかし、バスに比べて維持費が安く、また細い道も通ることができるワゴンの有効性は感じられた。

持続可能な地域公共交通とするために、

- ① 歳入面では、高齢者を無料化してしまうと、ほとんどの利用者が無料となり、財政的に厳しくなること
- ② 運転手のなり手確保の観点からは「日・祝」の実施は慎重にすること

（日曜日・祝日も勤務だとドライバーの応募に影響があるという）
といったアドバイスもあった。

今後の地域公共交通について施策を提言していく上で、今回の視察の結果を活かしていきたい。

* 行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、会派又は無会派議員にて保管